

# 中智が追い求めるもの ～日本企業の未来を拓く①～

不確実性の時代を生きるために、企業はいかに迅速かつ適切な経営判断を下していくべきか。経営のスリム化によるコスト削減策に、どう取り組み、金融危機の影響を克服していくべきか——。2万余におよぶ在中日本企業にとっても無関係ではられない、そんな経営の難題の数々に、HRマネジメントから解決の糸口を求め提案を行うのが中智グループ(cic)だ。



王慧氏

日中HR市場にて、豊富なキャリアを積んできた2人のプロフェッショナル——中智上海経済技術合作公司・王慧副総経理と中智日本分公司・張俊総経理——に同グループが取り組む事業の外貌と今後の展望について聞いた。

——中智が日本に進出して9年になります。

張俊..2001年、大阪に日本分社を設立した。当初、日本市場に溶け込んでいくためには大きなハードルがあったことは事実です。顧客との間に業務関係を結んだ場合、他のサプライヤーを考慮することをほとんど望まないなど、日本企業の保守的な商習慣も挙げられるでしょう。

そこで、私たちは多くの日本国籍スタッフを雇用する一方で、日本文化への理解を深めていくよう

に努めました。一方で、上海にも日本企業サービスセンター(中智上海海外企務分公司日本企業服務中心 (021)5459-4545\*2950)を立ち上げ、サービスの品質を監督しつつ、日本企業の専門サービスに対するニーズやそのプロセスについて専門的に研究を行うなど、持続的なサービスを提供できるように体制を築いてきました。こうした努力が実り、幸いにも多くのお客様から信頼を頂くことになっていったのです。

——ズバリ、グループ連携が売りだということですね。

王慧..中智グループの優位性は、日本分社と上海との間はもとより、域内外の連携による対応を可能としていることです。現在、中智上海は中智グループの国内における二大業務アウトソーシングセンターの一つとなり、その業務範囲は76カ国と地域に及んでおり、25万社あまりの国内外企業に50万人もの社員を派遣しています。

日本語による情報発信体制も充実しています。ウェブサイトもすでに日本語化([www.cicsh.jp.htm](http://www.cicsh.jp.htm)、[www.cic.com](http://www.cic.com))し、中国ビジネスの動態とH



張俊氏

R市場の動向をタイムリーにお伝えしております。

——近年では業容も幅広いものになってきています。

王慧..常に新機軸を打ち出し、サービスモデルを充実していくべきかに中智は知恵をふりしぼっています。欧米企業が採用するサービスモデルを機械的に当てはめるようなことは避けました。豊富な経験をもとに、日本企業のために、日本企業に合ったサービスモデルを構築したのです。現地市場と文化への理解を増し、より顧客ニーズに合った商品を提供できるようになっていったと自負しています。

近年では、卓越した人材をお客様に派遣していくことはもとより、人事代理、福利厚生プラン、給与管理など、HR全般にわたるサービ

スを提供しています。したがって、スタッフに対しては、良好な日本語能力だけでなく、誠実さ、プロ精神、辛抱強さ、きめ細かな対応を念頭に、常にパーフェクトを目指すことを仕事の流儀、サービス精神とするように求めています。

また、東京と上海、北京で各種シンポジウムを盛んに開くなど情報発信に努めています。シンポジウムの数は新労働法施行後、とくに回数が増えました。

### ——コンサルティンク力も高まりました。

張俊・日本市場開拓のうえで、「先鋒」役を担ったのは、法律リスクをめぐるコンサルティンクでした。時として紛争にまで発展する事態も想定されるなど、人材招聘のプロセスにおいて法律リスクは不可避な問題です。企業はいかにしてこのリスクを低減し、解決を図っていくべきか。すみやかな問題解決をサポートし、関連業務を提供するような専門的な機構はないか。そんなニーズに対して中智はソリューションを提供しているので

(次号に続く)

## 中智グループ

### 「2009年中国人的資源フォーラム」を開催

「良好な労使関係を維持しながらコスト削減に取り組むにはどうしたらよいか」「危機克服のためには、どんなイノベーションに取り組んだらよいのか」

——そんな企業が直面する課題をHR面からフォーカスし、今後の経営政策のあり方について考えるフォーラム「2009年中国人的資源フォーラム(2009 CHINA HUMAN CAPITAL FORUM)」が9月10日、上海環球金融中心のカンファレンスルームにて行われた。

### ——紛争事例を詳らかに解説

今回のフォーラムを主催したのは中国国务院傘下の企業集団として総合的なHRサービスを展開する中智グループ(中国国際技術智力合作公司、中智上海経済技術合作公司、中国国際技術智力合作公司日本支社、中智上海海外企務分

公司中智上海日系人材服務諮詢有限公司)が

限公司)。「日本企業分科会」など4つの会場で同グループのHRプロフェッショナルらが熱弁をふるった。

日本分科会には在中国の日系企業HR担当者や地元メディア関係者など300名が参加。中国国際技術智力合作公司日本支社の張俊社長と中智上海経済技術合作公司・王



待合ロビーでは協賛企業がブースを設けた



アウトソーシングをテーマに講演した王慧氏



熱弁をふるう張俊氏



シンポジウムは日中2カ国語で行われた

慧副総経理が講師を担当した。

張氏は「不況下の人事労務トラブル対策」をテーマに、世界不況のもとの中国現地外資系企業の現状や日本企業労使関係の現状を説明するとともに、人材雇用にまつわるさまざまなトラブルや紛争事例とその分析を行い、日々の業務管理のあり方について注意を喚起した。

### ——アウトソーシング効果をアピール

一方、王氏は、経営イノベーションをもたらす人材アウトソーシングモデルについて話を進めた。「新



「日本分科会」だけで企業HR担当者ら300名余が参加した。

経済を背景とした第2世代の人的資源」としてのアウトソーシング活用の意義をアピールしながら、同グループが日本企業向けに提供する専門サービスの概要紹介をした。中智では近年、オンラインでの情報発信体制も強化、中国経済の関連ニュースやHR政策にまつわる情報を「上海中智日系人材相談サイト」で提供しているほか、顧客ニーズをもとに、基礎サービスから

多様な高付加価値のサービスの研究・開発に取り組んでいる。

なお、フォーラムでは、労働契約法をテーマに参加者から質問が相次ぎ、労働法の専門家である賀曉東氏が回答に追われた。同法は1年半以上が経過したものの、無期限固定契約の解釈などをめぐって、いまだ論議が絶えない実情にある。

中智グループが日系企業向けに上海で大型フォーラムを開いたのは2年ぶり。張氏(前出)によれば今後は年1回のペースで行いたいとしている。また、中智は1987年に設立、以来、中国人研修生及び現地ホワイトカラーなどの人材派遣や紹介、研修、給与調査、人事コンサルティングなど、総合力を活かしたワンストップサービスの提供を売りに中国全土で事業展開、海外にも多く拠点をもつなど存在感を誇示してきた。

#### DATA

##### 中智上海海外企服務分公司 日本企業服務中心

中国上海淮海中路1010号  
嘉華中心604室

(021)5459-4545\*2950

(021)5404-6758

<http://www.ciicsh.com>

##### 中智上海日系人材服務諮詢有限公司

(021)5459-4545\*2900

(021)5404-3722

<http://www.ciicshjphr.com/Jp/>

##### 中智日本支社 HRM事業部

0081(6)6945-8228

0081(6)6945-8338

<http://www.ciicshjp-hrm.com>